

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 一人一台のタブレットPC等を活用した個別最適化の学習と協働的な学びの実践
- おどろきと発見のある授業づくりにより、主体的・対話的で深い学びを実現する。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長	横島道彦	教頭	松尾正規
豊島由美子		教務主任	中章訓	1学年主任	中章訓
		2学年主任	西川智子	3学年主任	豊島由美子

校長

横島 道彦

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いた学習態度で授業に取り組み、課題や提出物をきちんと出せる生徒が多い。 ●知識・技能の定着が十分でない生徒がいる。 ●他の人の意見を取り入れたり、身に付けた知識を関連付けながらまとめたりして、学びを深めることに課題がある。	・授業の目標を理解し見通しをもって学び、学習内容の理解度や習得度がわかる。 ・家庭学習の充実が図れ、基礎的・基本的な知識や技能が他の学習や生活の場面においても活用することができる。 ・課題解決をめざし、粘り強く課題に取り組むことができる。	・タブレットPC等を効果的に活用し、知識・技能の確実な定着を図る。 ・生徒の興味・関心を喚起させる授業のために、明確な説明・指示・発問の仕方を工夫するとともに、授業後に目標に沿った振り返りを行う。 ・他学年・他教科の教員が相互に授業参観を行い学び合う。	・各教科における知識・技能の習得をより徹底させる。学習動画や復習問題をタブレットPC等を用いて繰り返すことで、定着を徹底させる。 ・教員間の授業参観で学んだことを積極的に授業に取り入れる。	・教科間で差はあるが、タブレットPC等の活用法を工夫し、知識・技能の定着に一定の効果が見られた。 ・教員間での授業参観を定期的に行うことで、相互に学び合ったことを授業に取り入れ、授業力の向上に努めることができた。	・学習支援アプリやデジタル教科書などの、より効果的な活用法や改善が図れるよう、教材研究や準備時間の確保を行う。 ・家庭学習の充実が図れるよう、課題の出し方の工夫や家庭学習の進め方について、家庭との連絡を密にする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを書いたり発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒は多い。 ●課題に応じて必要な情報等を取り入れたり、根拠を明らかにして自分の考えをまとめたりすることに課題がある。	・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。	・生徒が安心して自己表現できる学級づくりを学級担任・教科担任が積極的に行う。・ホワイトボードやICT機器を使って書く・話すなどの言語活動を充実させる。 ・必要に応じてペア・グループワークやICT機器を効果的に取り入れ、双方向での学習活動を工夫する。	・自分の意見や考えを、タブレットPC等を用いて付け足したり書き直したりしながら、深める活動の充実を図る。 ・聞く・話すだけでなく、意見を読み・書きから伝え合う言語活動の充実を図る。	・教員間での情報共有を日常的に行うことで、生徒理解を図ることができた。 ・ホワイトボードやICT機器を用いて、自分の考えを深める活動が行えた。 ・ICT機器やホワイトボードなどを課題に応じて使い分けることで、話し合いや発表など言語活動の充実につながり、思考を深めることができた。	・深い学びに導くために、物事を思考・判断しながら、根拠を明らかにして自分の意見を表現する機会を増やす。 ・仲間と考えを広げたり深めたりしながら、新しい考えを生み出す話し合い活動を増やすなど、改善をしていく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業へ一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習や各テストにも計画的・主体的に取り組むことができる。 ●こつこつと地道に取り組んだり、不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて解決することに課題がある。	・自ら学ぶ意欲や喜びを実感し、目標達成への計画や見通しを持って粘り強く取り組むことができる。 ・課題の解決に主体的に取り組む、試行錯誤しながら解決方法を見つけ出し成就感が持てる。	・個に応じた指導を充実する。 ・タブレットPC等の活用により、生徒相互、生徒と教師が学び合うことのできる場を設定する。 ・タブレットPC等の活用で、家庭学習を充実できるような工夫をする。	・家庭学習や各テストに向けて取り組んだ結果が、成果として認識できるよう学習の見通しや、計画を立てさせる。	・目標達成に向けた計画や学習の見通しを十分に持たせることは不十分であった。 ・タブレットPC等の活用に教科間で差は見られるが、互いに学びあう場を設定したり、家庭学習の充実につなげたりすることができた。	・学習の見通しを十分に持たせるための、計画の立て方を工夫する必要がある。 ・タブレットPC等を用いた双方向の学習を工夫するために、活用法についての研修時間を確保する。

令和3年度 学力向上ロードマップ

